

第75回全国小・中学校作文コンクール(読売新聞社主催/文部科学省ほか後援)

埼玉県審査、小学校高学年の部で本校4年申上葵子さんが最優秀賞(最高位)を受賞した新聞記事が掲載されました。

私の家族は「ワンチーム」

1月、お父さんが突然体調を崩し、入院することになった。お父さんのいない家は静かだった。私は学校に行けなくなった。理由は分からないが、朝になると体が重くなった。お父さんは、入院をして1か月以上たってから目を覚ました。2月のバレンタインデーは、チョコを食べられないお父さんのため、紙粘土で作ったお菓子を病院に持っていた。その日、お父さんは入院後、初めて立つことができ

た。家族みんなが毎日、面会に行った。私の家族は「ワンチーム」だ。お父さんが入院することになって悲しかったが、目の前にお父さんがいるだけでも家族はいつもつながっている。お父さんはリハビリを頑張り、退院して家に戻ってきた。私も学校に行けるようになった。私はまだ小学生だがチームの一員だ。家族が困っている時、助けられるようになりたい。

父親が入院している間の不安や辛い経験、そして学んだことを伝えたいため、親は退院し、「一緒に生活している」「いろんなことをライクになった」と笑顔を見せる。作文は「今までの出来事を書いた日記みたいなもの」。当時の気持ちを思い出しながら、家族の状況や絆を明に書き込んだ。母からアドバイスをもらって、お父さんへの感謝や「お父さんへのお手紙」を自指すように書く。お父さんへの感謝や「お父さんへのお手紙」を自指すように書く。お父さんへの感謝や「お父さんへのお手紙」を自指すように書く。

父入院 家族で乗り越え



開智小4年 申上 葵子さん

父親の入院を家族の絆で乗り越えた申上さん(20日、さいたま市緑区)

この夏で学んだこと

牧場には、馬に乗るだけでなく人の心を映し出す場所もある。この夏に参加した10日間の乗馬キャンプは、かけがえのない体験になった。エサやりや馬房の掃除を通してキャンプ仲間とつながりを深めた。「準備」の大切さも学んだ。馬具をそろえ、馬の体調を観察することが馬との信頼関係を築き、事故防止にもつながる。「準備」は単なる「段取り」ではなく、心と心をつなぐ大切な儀式だと

考えるようになった。馬は、耳や目などの仕草を通じて気持ちを伝えてくれる。手綱を強く引きすぎると馬は痛みを感じ、やめてほしいとサインを出す。言葉を持つ人間同士でも相手のサインを見逃し自分の都合だけで判断してしまうこともある。相手の観察し「声」をくみ取ることが大切だ。乗馬キャンプでの経験は、これからの人生に役立つと思っている。

馬の牧場の乗馬キャンプには、3歳の時から年に2〜3回のペースで通う。小学生まではホリデーだったが、今ではサラブレッドにまたがれるようになった。受賞作は夏休みの課題で、「馬との交流の素晴らしい瞬間」をテーマにした。原稿用紙に向き合う中で、馬との交流の素晴らしい瞬間を思い出した。原稿用紙に向き合う中で、馬との交流の素晴らしい瞬間を思い出した。原稿用紙に向き合う中で、馬との交流の素晴らしい瞬間を思い出した。

馬との交流 詳細に描く



開智所沢中等教育学校2年(中学2年) 守分 朝日君

「楽しかったこと、伝えたいことを書いて、きたい」と語る守分君(20日、所沢市)

作文コンクール 第75回全国小・中学校作文コンクールの結果。審査が行われ、小学校低学年、同高学年、中学校の3部門から最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作7点がそれぞれ選ばれた。最優秀賞作品は、全国から集められた作文による中央審査に進んだ。受賞者の喜びの声と作文要約を掲載する。(優秀賞作品の要約、佳作受賞者は後日掲載します)

主催=読売新聞社 後援=文部科学省ほか 協賛=J R東日本、J R東海、J R西日本、日本テレビ放送網、日本書芸院、光村印刷 協力=三菱鉛筆

県最優秀3人 喜びの声